

PRIMERGY L250 使用上の注意

このたびは、弊社のPRIMERGY(プライマジー) L250をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバをご使用になる上での注意事項がございますので、本書をよくお読みの上ご使用願います。

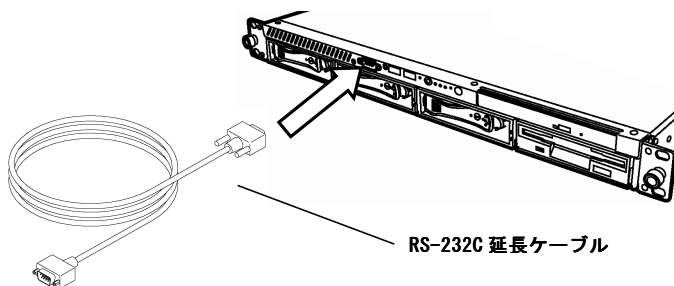
平成 14 年 12 月
富士通株式会社

【L250 ハードウェアガイド: B7FH-1221-01】

1. 前面シリアルポートコネクタに関する注意事項 (追加)

(関連ページ:「1.1 サーバ本体前面 (12 ページ)」)

装置前面のシリアルポートコネクタ2は、RS-232C ケーブルのコネクタ形状によっては奥まで挿入できない場合があります。この場合は、付属の RS-232C 延長ケーブルを使用してください。



2. パスワードの設定方法 (訂正)

(関連ページ:「2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ (29 ページ)」)

「■パスワードの設定方法」で下記を訂正いたします。

(誤)

3. 【↑】【↓】キーで「Supervisor Password」、または「User Password」にカーソルを合わせ、【→】【←】キーを押します。

(正)

3. 【↑】【↓】キーで「Supervisor Password」、または「User Password」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

3. 電源を切断する場合の注意 (追記)

(関連ページ:「3.3 電源を切る (29 ページ)」)

注意: 電源を切った後電源ケーブルを抜く場合は、10 秒以上まってからケーブルを抜いてください。

4. 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付けに関する注意事項（訂正） （関連ページ：「(51～53 ページ)」）

- ・ 取り付け／取り外し手順の3項について、以下の通り訂正します。

（誤）

内蔵 CD-ROM ドライブユニットからダミーカバーを取り外します。

上部のラッチを下に押しながらダミーカバーの一方を引き出してから、ダミーカバーを引いて取り外します。

（正）

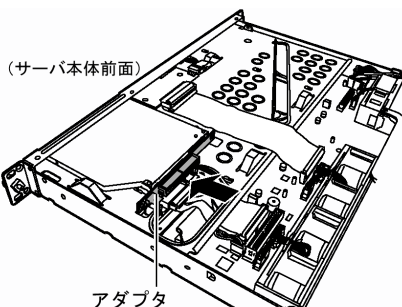
内蔵 CD-ROM ドライブベイからダミーカバーを取り外します。

上部のラッチを上に持ち上げながらダミーカバーの一方を引き出してから、ダミーカバーを引いて取り外します。

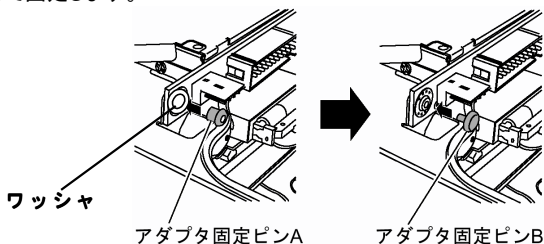
- ・ 取り付け／取り外し手順の5～8項を以下のように訂正します。

5. 内蔵 CD-ROM ドライブユニットにアダプタを取り付けます。

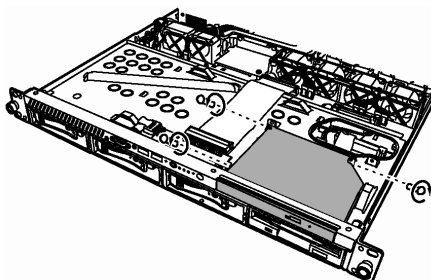
内蔵 CD-ROM ドライブユニットの背面のコネクタに、
アダプタを接続します。



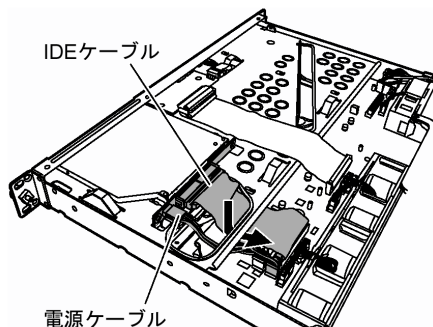
6. アダプタ固定ピン A にワッシャーをはめ、アダプタの穴を通して 板金の穴に差し込み、ピン A を差し込んで固定します。



7. 内蔵 CD-ROM ドライブユニットを固定します。 側面 3 箇所をネジで固定します。



8. IDE ケーブルと電源ケーブルを接続します。
内蔵 CD-ROM ドライブユニットのアダプタに、
添付のケーブルを接続します。
IDE ケーブルと電源ケーブルをサーバ本体
前面の天板の穴にケーブルをくぐらせ、
ベースボードに接続します。



5. 拡張カードの取り付けに関する注意事項（追記）

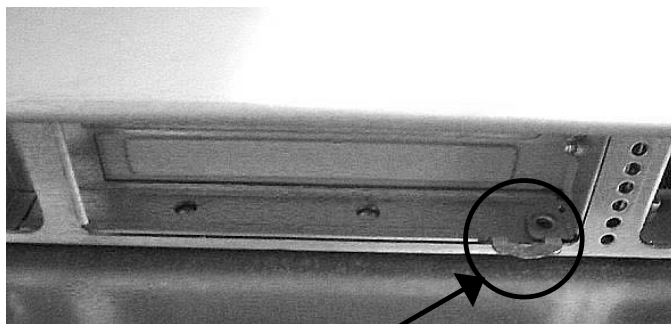
（関連ページ:「(59～60 ページ)」）

- ・ 取り付け手順の6項に以下の注意事項を追記します。

「注意」

カード固定フレームをサーバ本体に取り付ける際には、以下の3点に注意して取り付けてください。

図1のように金具が筐体にひっかかるように取り付けてください。



金具

図 1

また、図 2 のように金具が筐体の穴に引っかかるように取り付けてください。

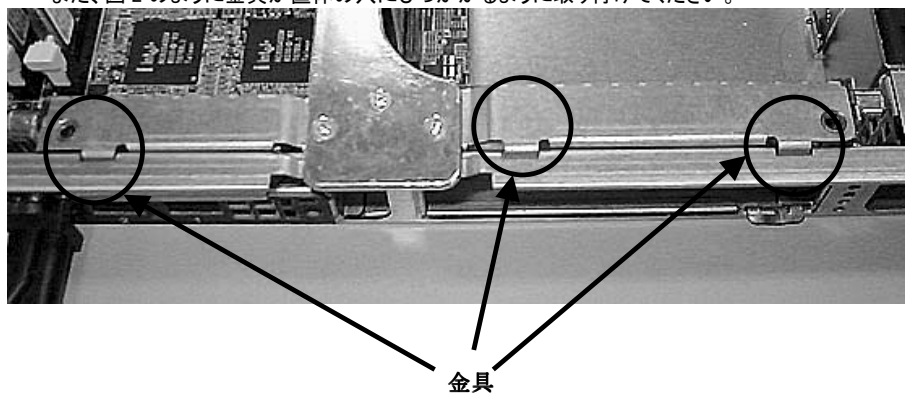


図 2

カード固定フレームの穴が、図 3 のように筐体の突起に、きちんとはまるように、取り付けてください。

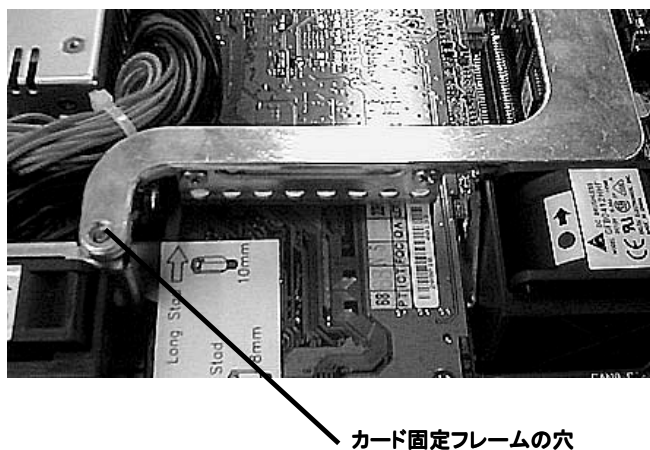


図 3

6. BIOS 設定メニュー（訂正）

（関連ページ：「5.3.5 Advanced メニュー(84 ページ)」

（誤）

項目	設定値	内容
Reset Case Open Status	<input checked="" type="radio"/> No <input type="radio"/> Yes	シャーシの開閉状態を更新します。
Case Status	—	シャーシの開閉状態を表示します。

（正）

本サーバに上記設定はありません。

（関連ページ：「5.3.8 Server メニュー(91 ページ)」

（誤）

項目	設定値	内容
Boot Retry Counter	<input type="checkbox"/> 0 ~ <input checked="" type="radio"/> 7	オペレーティングシステムの起動に失敗した場合の起動再試行回数を設定します。

（正）

項目	設定値	内容
Boot Retry Counter	<input type="checkbox"/> 0 ~ <input type="checkbox"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 3	オペレーティングシステムの起動に失敗した場合の起動再試行回数を設定します。 注意事項： ▶ この項目の設定変更を行う場合はServerViewの「ブートウォッチドッグ」の機能より、設定変更をしてください。PRIMERGY ドキュメント&ツールCD 内の『ServerView ユーザーズガイド 第3章ServerView の使用方法— 9 ServerView』の「アクション」項目を参照してください。

7. Server Management Tools をご使用になる場合の注意事項（追記）

（関連ページ：「5.5 BIOS 設定情報の退避／復元 ■注意事項(106 ページ)」

「6.6.2 イベントログの採取 注意(124 ページ)」

- ・ Server Management Tools は、本サーバに添付の「Server Management Tools」ディスクに含まれているものを御使用ください。ServerStart CD から作成した「Server Management Tools」ディスクは版数が古いためご使用にはなりません。

8. 継続的にビープがなった場合の対処（追記）

（関連ページ：「6.4 トラブルシューティング ■サーバ本体(117 ページ)」

本サーバは、エラーが発生した場合ビープを鳴らす機能があります。継続的にビープ音が鳴る場合は、何らかのエラーを検出したことを示していますので、本体のイベントログを確認してください。

（6.6 イベントログ（122 ページ）参照）

9. システム識別灯が点灯した場合（追記）

（関連ページ：「6.4 トラブルシューティング ■サーバ本体(117 ページ)」）

本サーバ起動時に、まれにシステム識別灯が点灯する場合があります。自動的に消灯されますので、本体の動作には問題ありません。

10. リモートサービスボード搭載時の注意（追記）

（関連ページ：「6.4 トラブルシューティング ■サーバ本体(117 ページ)」）

本サーバに、リモートサービスボードを搭載した場合、起動時下記のエラーがログされる場合があります。本サーバの動作には問題ありませんので、そのままご使用ください。

#2F07: Internal SM I2C error on bus 0 in cabinet 0

11. ハードウェアガイドの本体仕様について(誤記)

（関連ページ：「7.1.1 本体仕様(128 ページ)」）

本体仕様を下記のように変更いたします。

(誤)

ネットワーク	LAN(100BASE-TX/10BASE-T) x 2 (ベースボード標準搭載)
--------	---

(正)

ネットワーク	LAN(1000BASE-T) x 2 (ベースボード標準搭載)
--------	----------------------------------

12. LAN 経由の電源投入／切断時の留意点（追記）

（関連ページ：「7.3 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点(132 ページ)」）

「Power MANagement for Windows V1.1」により LAN 経由での電源投入／切断を行う場合、「Power MANagement for Windows V1.1」でコンソール側でクライアントの IP アドレスを設定してください。

13. リモートコントロール機能について (追記, 訂正)

(関連ページ:「7.4 リモートコントロール機能について (133 ページ)」)

7.4 リモートコントロール機能について(追記)

「注意」に下記を追加いたします。

- RS-232C 経由でリモートコントロール機能を使用する場合には、パーソナルコンピュータ上のターミナルソフトと Remote Control ユーティリティの通信速度および Flow 制御方法を同じ設定にする必要があります。

【例】本サーバのリモートコントロール機能の設定がデフォルト値の場合
パーソナルコンピュータ側のポートは下記のように設定してください。



7.4.1 本サーバと PC の接続(追記・訂正)

「注意」を下記のように変更いたします

(誤)

- BIOS セットアップユーティリティを、以下のように設定する必要があります。

- ・Advanced メニュー— Advances Configuration サブメニューの Console Redirect を「COMA」に設定
- ・Server メニューの Remote Control を「Enabled」に設定

(正)

- BIOS セットアップユーティリティを、以下のように設定する必要があります。

- ・Server メニューの Remote Control を「Enabled」に設定
- リモートコントロール機能を使用するときのみ、設定を「Enabled」にしてください。

(追加)

- リモートコントロール機能を使用する場合は、管理端末は必ず背面のシリアルポートに接続してください。
- リモートコントロール機能を使用する目的以外で背面のシリアルポートに機器(UPS など)を繋げて運用する場合はリモートコントロール機能を使用できません。
- リモートコントロール機能を有効にした場合は、背面のシリアルポートはデータ通信に使用することはできません。

7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作

■接続(訂正)

「注意」を下記のように変更いたします。

(誤)

●Windows 2000 のハイパーターミナルでは接続できません。

(正)

●Windows 98 のハイパーターミナルを使用してください。

■サーバ本体の操作(訂正)

本サーバでリモートコントロール機能の「ShutDown」を使用した場合の動作を下記に変更いたします。

(誤)

メニュー	動作
ShutDown	サーバ本体の電源ボタンを押します。Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となります。

(正)

メニュー	動作
ShutDown	サーバ本体の電源ボタンを押します。Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となり、通常のシャットダウン操作とは異なります。そのため、イベントログに「以前のシステムシャットダウンは予期されていませんでした」とログが残ります。

■設定の変更(訂正)

リモートコントロール機能の設定値と内容を下記に変更いたします

-- Customization menu --

1: Change Attention Key

2: Change Password

3: Change Time out

4: Change Baud Rate

5: Change Flow Control

R: Return

メニュー	内容																																																
Change Attention Key	<p>メニューに入るためのキーのアサインを変更できます。変更したいキーを入力します。</p> <table><tr><th>キー</th><th>コード</th><th>キー</th><th>コード</th></tr><tr><td>Ctrl-A</td><td>0x01</td><td>Ctrl-P</td><td>0x10</td></tr><tr><td>Ctrl-B</td><td>0x02</td><td>Ctrl-T</td><td>0x14</td></tr><tr><td>Ctrl-C</td><td>0x03</td><td>Ctrl-U</td><td>0x15</td></tr><tr><td>Ctrl-D</td><td>0x04</td><td>Ctrl-V</td><td>0x16</td></tr><tr><td>Ctrl-E</td><td>0x05</td><td>Ctrl-W</td><td>0x17</td></tr><tr><td>Ctrl-F</td><td>0x06</td><td>Ctrl-X</td><td>0x18</td></tr><tr><td>Ctrl-G</td><td>0x07</td><td>Ctrl-Y</td><td>0x19</td></tr><tr><td>Ctrl-K</td><td>0x0B</td><td>Ctrl-Z</td><td>0x1A</td></tr><tr><td>Ctrl-L</td><td>0x0C</td><td>Ctrl-[</td><td>0x1B</td></tr><tr><td>Ctrl-N</td><td>0x0E</td><td>Ctrl-¥</td><td>0x1C</td></tr><tr><td>Ctrl-O</td><td>0x0F</td><td>Ctrl-]</td><td>0x1D</td></tr></table> <p>工場出荷設定値は Ctrl-¥ です。</p>	キー	コード	キー	コード	Ctrl-A	0x01	Ctrl-P	0x10	Ctrl-B	0x02	Ctrl-T	0x14	Ctrl-C	0x03	Ctrl-U	0x15	Ctrl-D	0x04	Ctrl-V	0x16	Ctrl-E	0x05	Ctrl-W	0x17	Ctrl-F	0x06	Ctrl-X	0x18	Ctrl-G	0x07	Ctrl-Y	0x19	Ctrl-K	0x0B	Ctrl-Z	0x1A	Ctrl-L	0x0C	Ctrl-[0x1B	Ctrl-N	0x0E	Ctrl-¥	0x1C	Ctrl-O	0x0F	Ctrl-]	0x1D
キー	コード	キー	コード																																														
Ctrl-A	0x01	Ctrl-P	0x10																																														
Ctrl-B	0x02	Ctrl-T	0x14																																														
Ctrl-C	0x03	Ctrl-U	0x15																																														
Ctrl-D	0x04	Ctrl-V	0x16																																														
Ctrl-E	0x05	Ctrl-W	0x17																																														
Ctrl-F	0x06	Ctrl-X	0x18																																														
Ctrl-G	0x07	Ctrl-Y	0x19																																														
Ctrl-K	0x0B	Ctrl-Z	0x1A																																														
Ctrl-L	0x0C	Ctrl-[0x1B																																														
Ctrl-N	0x0E	Ctrl-¥	0x1C																																														
Ctrl-O	0x0F	Ctrl-]	0x1D																																														
Change Password	<p>パスワードを設定します。</p> <p>工場出荷時は、パスワードは何も設定されていません。</p>																																																
Change Time out	<p>タイムアウト値を 30 秒から 999 秒まで設定します。</p> <p>工場出荷設定値は 60 秒です。</p>																																																
Change Baud Rate	<p>RS-232C の転送速度を変更します。</p> <p>9600 bps または 19200 bps を選択します。管理端末側の設定と合わせてください。設定が違くと、通信できなくなる場合があります。</p> <p>工場出荷設定値は 9600 bps です。</p>																																																
Change Flow Control	<p>RS-232C のフロー制御方法を変更します。</p> <p>管理端末側の設定と合わせてください。設定が違くと、通信できなくなる場合があります。</p> <p>工場出荷設定値は Non です。</p>																																																
Return	<p>メインメニューに戻ります。</p>																																																

【PRIMERGY L250 H450 R450 ソフトウェアガイド:B7FH-1331-01】

1. チップセットドライバのインストールについて(訂正)

(関連ページ:「3.8.1 Windows 2000 Server のインストール (103 ページ)」)

Windows 2000 Server を手動でインストールする場合、チップセットドライバは LAN ドライバより先にインストールしてください。

(誤)

- 8 LAN ドライバをインストールします。
- 9 チップセットドライバをインストールします。

(正)

- 8 チップセットドライバをインストールします。
- 9 LAN ドライバをインストールします。

2. ServerView モジュールの入替えについて(PRIMERGY L250 の場合)(追加)

(関連ページ:「5.2.5 ServerView のインストール(173 ページ)」)

本サーバで Windows 2000 Server/Windows NT Server 4.0 をご使用の場合は、ServerView のモジュールの入替えが必要です。以下の手順に従って、モジュールの入替えを行ってください。

なお以下の手順は Administrator の権限で行ってください。

1. ServerView をインストールし、システムを再起動します。
2. システム起動後、5 分以上待ちます。
3. 起動監視が無効であることを確認します。
 - 3-1. [スタート]-[プログラム]-[Fujitsu ServerView]-[Fujitsu ServerView]を起動します。
 - 3-2. “サーバの一覧”メニューから対象サーバ(自サーバ)を起動します。
 - 3-3. [アクション]-[ASR]-[再起動設定]を開き、“起動監視”の“☐有効にする”にチェックが付いていないことを確認します。チェックが付いている場合には、チェックを外した設定に変更します。
 - 3-4. ServerView を閉じます。
4. SNMP Service と ServerControlService のスタートアップを無効に変更します。

<Windows 2000 Server の場合>

 - 4-1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開きます。
 - 4-2. “SNMP Service”をダブルクリックします。
 - 4-3. 「スタートアップの種類」を“自動”から“無効”に変更して[OK]をクリックします。
 - 4-4. “ServerControlService”をダブルクリックします。
 - 4-5. 「スタートアップの種類」を“自動”から“無効”に変更して[OK]をクリックします。

<Windows NT Server 4.0 の場合>

 - 4-1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[サービス]を開きます。
 - 4-2. “SNMP”を選択して[スタートアップ]をクリックします。
 - 4-3. 「スタートアップの種類」を“自動”から“無効”に変更して[OK]をクリックします。
 - 4-4. “ServerControlService”を選択して[スタートアップ]をクリックします。
 - 4-5. 「スタートアップの種類」を“自動”から“無効”に変更して[OK]をクリックします。
5. システムを再起動します。

6. モジュールを入替えます。

6-1. 本サーバに添付の「ServerView Driver Disk」(フロッピーディスク 1 枚)をセットします。

6-2. エクスプローラなどでフロッピー媒体を参照します。

6-3. RepSV.bat をダブルクリックします。

注意: フロッピーディスクがAドライブでない場合には、直接モジュールを入れ替えてください。

以下のフォルダにある EM_IPMI.dll をフロッピー媒体のものと入替えます。

〈システムドライブ〉¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbag01¥Server Control¥Bin

7. ServerControlService と SNMP Service のスタートアップを有効に変更します。

〈Windows 2000 Server の場合〉

7-1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開きます。

7-2. “ServerControlService”をダブルクリックします。

7-3. 「スタートアップの種類」を“無効”から“自動”に変更して[OK]をクリックします。

7-4. “SNMP Service”をダブルクリックします。

7-5. 「スタートアップの種類」を“無効”から“自動”に変更して[OK]をクリックします。

〈Windows NT Server 4.0 の場合〉

7-1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[サービス]を開きます。

7-2. “ServerControlService”を選択して[スタートアップ]をクリックします。

7-3. 「スタートアップの種類」を“無効”から“自動”に変更して[OK]をクリックします。

7-4. “SNMP”を選択して[スタートアップ]をクリックします。

7-5. 「スタートアップの種類」を“無効”から“自動”に変更して[OK]をクリックします。

8. システムを再起動します。

9. 3.で起動監視の設定を変更した場合には、元の設定に戻します。

3. LAN の AFT 設定時の PowerCHUTE のインストールについて(追記)

(関連ページ:「A.4 LAN ドライバの詳細設定について ■その他の注意事項(279 ページ)」)

- ・オンボード LAN にて「Intel®PROSetII」をインストールした状態で PowerCHUTE をインストールする場合、途中で画面が消える場合がございます。インストールは継続しておりますので、リポート、電源オフ等は行わないでください(約 5 分で次の画面に移ります)

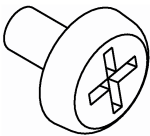
【PRIMERGY L250 初めにお読みください:B7FH-0981-01】

1. サーバ本体のラックへの搭載手順に関する注意事項（訂正）

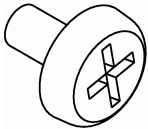
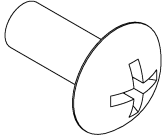
（関連ページ：「設置 ■サーバ本体のラックへの搭載手順(10, 11 ページ)」）

- ・ラックマウントキットの梱包物リストについて、「M4 ネジ」を以下のように訂正します。

誤)

□M4 ネジ : 24	
-------------	---

正)

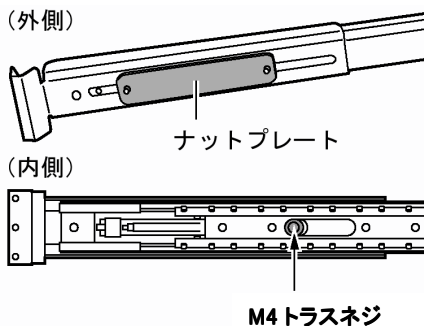
□M4 ネジ : 16	
□M4トラスネジ : 12 ※12 本中 8 本のみ使用。 (4 本は予備)	

- ・搭載手順について、以下の通り訂正します。

(a) 5-2 項

誤) ナットプレートをスライドレールの外側にあてて、ブラケットをナットプレートとともに、レール内側から 1 箇所を **M4 ネジ** で固定します。

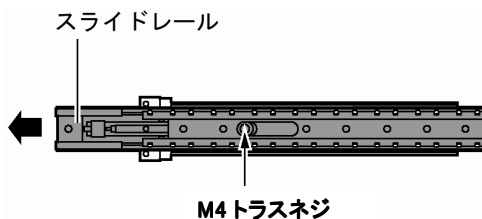
正) ナットプレートはスライドレールの外側にあてて、ブラケットをナットプレートとともに、レール内側から 1 箇所を **M4 トラスネジ** で固定します。



(b) 5-3 項

誤) レールを前方にスライドさせて、もう1箇所を **M4 ネジ**で固定します。

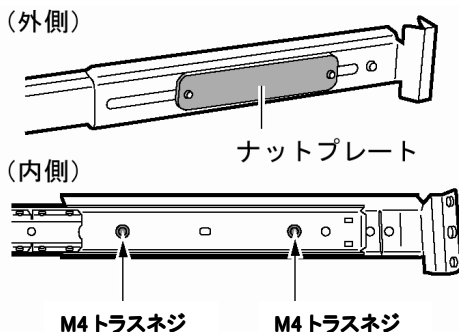
正) レールを前方にスライドさせて、もう1箇所を **M4トラスネジ**で固定します。



(c) 6 項

誤) スライドレールの外側にナットプレートをあてて、ブラケットをナットプレートとともに、レール内側から2箇所を **M4 ネジ**で仮留めします。

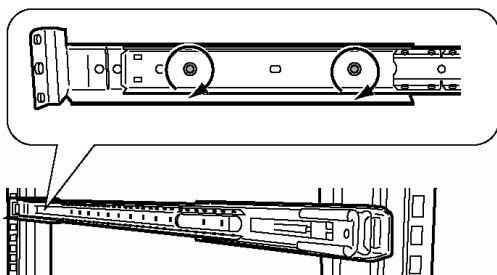
正) スライドレールの外側にナットプレートをあてて、ブラケットをナットプレートとともに、レール内側から2箇所を **M4トラスネジ**で仮留めします。



(d) 7-2 項

誤) 手順6で仮留めした、スライドレールの背面側の2箇所の **M4 ネジ**をしっかりとめます。

正) 手順6で仮留めした、スライドレールの背面側の2箇所の **M4トラスネジ**をしっかりとめます。



2. 電源を切断する場合の注意（追記）

（関連ページ：「8 電源を切る（16 ページ）」）

重要

▶ 電源を切った後電源ケーブルを抜く場合は、10 秒以上まってからケーブルを抜いてください。

3. BIOS セットアップ項目（訂正）

（関連ページ：「■Advanced メニューの設定項目(23 ページ)」

（誤）

設定 項目	設定値(■:変更禁止 ◎:ご購入時設定 値)
Reset Case Open Status	◎ No □ Yes
Case Status	シャースの開閉状態を表示します

（正）

本サーバに上記設定はありません。

（関連ページ：「■Server メニューの設定項目(24 ページ)」

（誤）

設定 項目	設定値(■:変更禁止 ◎:ご購入時設定 値)
Boot Retry Counter	□ 0 ~ ◎ 7

（正）

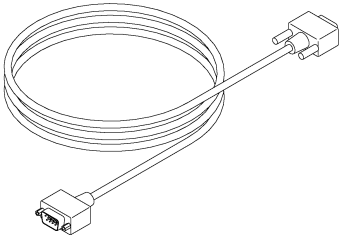
設定 項目	設定値(■:変更禁止 ◎:ご購入時設定 値)
Boot Retry Counter	◎ 3 □ 0 ~ □ 7

【PRIMERGY L250 梱包物一覧:B7FH-A042-01】

1. 梱包物に関する注意事項（追加）

梱包物（ハードウェア）に下記を追加いたします。

（追加分のみ）

品名	A	B	C	D	E
<input type="checkbox"/> RS-232C 延長ケーブル 	●	●	●	●	●
<input type="checkbox"/> PRIMERGY L250 使用上の注意 （本書）	●	●	●	●	●